



学びに向かう力

校長 橋本 滋

正門を入った所にある大きく枝を広げた金木犀から淡いやわらかな香りが子どもたちを迎えてくれています。一年の中で何をするのによい季節、10月を迎えました。5年生の少年自然の教室(たかつえ)6年生の修学旅行、読書月間など、様々な行事が予定されています。児童の「自分たちで意識」を育て、主体性を大切にしながら、事前の活動も大切にし、子どもたちのよさを伸ばしていきたいと思えます。それに加えて、毎日の学習を大切にしていって確実に学力を高めてほしいと思えます。その地道な学習で獲得した力がベースになり、行事などの様々な場面で力が発揮できるからです。

さて過日、地道な勉強に関連したある芸能人のインタビュー記事を読みました。タイトルは「勉強することでストレスから解放」です。その一部を要約してご紹介したいと思います。

その方は、中学校時代ものすごく勉強ができて、県内の上位の高校を受験できるぐらいの学力だったそうですが、高校では3年間バスケットばかりしてしまって勉強せず、高校3年間で勉強をする習慣を無くしてしまったそうです。高3になって将来やりたいことを親に話したところ、母親に関西の有名私立大(関関同立)の合格が条件だと言われたそうです。早速予備校に入るも手も足も出ず、模試も一番悪い判定、本人いわく「3年間さぼっている脳みそってダメなんですよ。」「大学受験はすべて不合格でした。」「ま、しょうがないか」と母に漏らしたところ、「受験費用は、お兄ちゃんが無駄金になってもいいからと言って全部自分の貯金から出したんだよ。」「そんなお兄ちゃんの気持ち分かってんの。」「そう言われ、浪人中は大発奮したそうです。「3年間サボったサビやアカを落とすために、まあ、勉強しましたね。コツなんてものではなくて、とにかくやる。朝の9時から夜の9時までは予備校で、家に帰って11時頃まで復習、それを毎日ずっと続けました。」「今日はすげーやったなあって時は、本当に気持ちよく眠れました。」「結局、関西大を含めて志望校、5校ぐらい全部受かりました。」「お笑い芸人になってからも賞レースなど、その都度努力してきましたけど、努力のベースを覚えたのが大学受験でした。」(お笑いタレント山里亮太氏のインタビューより)

このインタビュー記事からどのようなことが読みとれるでしょうか。「習慣が大事」「本気になればできる」「勉強脳をつくる」「努力が大事」等々、いろいろなことが浮かびます。

学習は意欲が不可欠です。それと「自分が」という主体性がなければ効果が上がりません。そして、学習は、学ぶ側と教える側の相互作用が大切です。学ぼうとしなければ成立しませんし、学びたくなるようにさせる、それが教師の腕の見せ所と言えるかもしれません。

話は変わりますが、新学習指導要領の答申があり、平成32年度から完全実施されます。その新学習指導要領の中にも「学びに向かう力の涵養」が挙げられており、主体的で対話的で深い学び(アクティブラーニング)の視点からの授業改善も示されています。これからの変化の激しい社会にあって、生涯にわたって能動的(自分から)に学び続ける資質の涵養が重要となります。

新学習指導要領の完全実施に向け、来年度からの2年間は、移行措置期間となります。教科によっては、新しい学習内容が入ったり、指導学年が変わったりするなど、学習内容が少しずつ変わっていきます。道徳は平成30年度から教科化となります。本校においても、アクティブラーニングの視点を踏まえた研究をしています。授業研究を実施し、指導法を学んでいます。また、道徳の教科化を見据え、その研究も本年度で4年目になります。本年度も11月の学校公開日には全学級で道徳の授業を行います。ご覧いただければ幸いです。



